

# 新害虫「アワダチソウゲンバイ」

平成15年の夏に、県内各地のキクでゲンバイムシによる被害が発生しました。採集した標本は、関西大学の宮武頼夫博士によって、アワダチソウゲンバイ *Corythucha marmorata* (Uhler) と同定されました。本種は平成11年に西宮市のセイタカアワダチソウで初確認された中南米原産の侵入種で、近畿圏の各地に分布を拡大しています。

## 形態の特徴と被害

成虫(写真1)は、相撲の行司が使う軍配に似た形をしています。前翅に多数の褐色斑紋があり、周縁には小棘が列生することから他のゲンバイムシ類と区別できます。卵(写真2)は葉裏の葉脈沿いに産み込まれ、幼虫(写真3)は葉裏に集合しています。

加害する作物は主にキクやヒマワリなどのキク科作物とサツマイモ、アメリカンブルーなどのヒルガオ科作物です。成虫と幼虫の吸汁によって葉表にハダニ被害よりやや大きい白斑が発生し、葉裏にはアブラムシ被害に似たスス症状が発生します。花き類では美観を著しく損ねますので注意が必要です。このほか、6月頃には露地ナスも加害されますが、ナスでは増殖しないようなので、対策は不要と思われます。

## 発生時期

本種は主に、林縁部のセイタカアワダチソウで成虫越冬し、4月中旬に第1世代幼虫が発生しま

す。その後、羽化成虫が作物に飛来し、加害が始まると考えられます。加害時期は5月下旬～10月頃までで、この間、発生量の変動は多少あるものの、ほぼ連続して圃場への飛来が続きます。殺虫剤には比較的弱く、慣行の殺虫剤散布を定期的に行っている圃場では被害はほとんど発生しませんが、防除を長期間省略している場合には激しい被害が発生します。

## 防除対策

本種はここ数年、県内全域のセイタカアワダチソウで激発しており、これが主な発生源となっています。国内に土着するゲンバイムシ類の場合は、卵寄生蜂や捕食性天敵によって自然発生量がコントロールされています。しかし、侵入種である本種には有効な土着天敵が存在しないために、激発を招いている可能性があります。雑草地や路傍に生えているセイタカアワダチソウを全て除草するのは不可能ですし、多発してから除草すると、逆に圃場内に追い込んでしまうことになります。病害虫防除所の調査では、スミチオン乳剤、オルトラン水和剤、DDVP 50乳剤、トレボン乳剤、アグロスリン乳剤、アクタラ顆粒水溶剤などの殺虫剤の効果が高いことが分かっています。アブラムシなどの防除と兼ねて、これらの剤の定期的な散布で防除するのが確実な対策と考えられます。

(虫害防除チーム 井村岳男)



写真1 成虫



写真2 卵



写真3 幼虫

農 技 情 報 No.121

2005年6月27日印刷発行

編集発行 奈良県農業技術センター  
TEL 0744 (22) 6201  
FAX 0744 (22) 8068  
URL <http://www.naranougi.jp>  
印刷 株式会社 明新社